

提 案 書 (概要)

曼陀羅園町に所在する町家を活かした
地域の触れあいづくりプロジェクト実行委員会

1. 曼陀羅園町誕生ストーリー

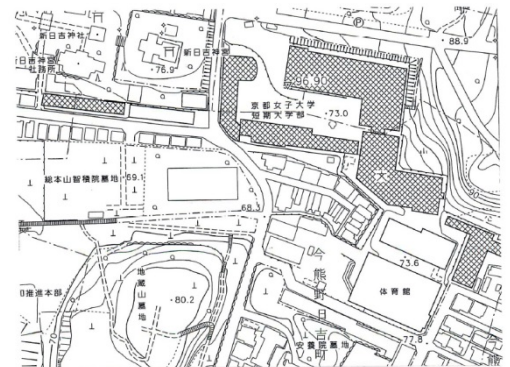
(1) 曼陀羅園の歴史

今回申請する建物が立地する東山区今熊野にある曼陀羅園町は、昭和初期に、3人の有志者によって、住宅地として開発された、20戸ほどの小さな町である。現在は、町内北側の連棟長屋が、その当時の面影を残している。賃貸用とはいえ、一つひとつに配置された前庭の燈籠がすべて異なり、開発者のこだわりを見ることができる。市電に乗って通勤できる、当時のサラリーマン用として開発されたのでおみやげと推察されている。随所に、採光に工夫されたところがあり、当時の注目された、「健康住宅」を意識されたとされる。現在は失われているが、町内の路地には石畳が敷かれ、その趣きが大変良いことから、かつて、映画の撮影ロケにも使用されたとのことである。「曼陀羅園」の町名は、開発者らで名付けられ、住所町名とは異なるが、学区内の町名としては、現在も、「曼陀羅園町」が採用されている。



(2) 空き家建物の構成

建物は、18畳の座敷を中心とする平屋建ての「離れ」、居住部分の2階建ての「主屋」、そしてこれらを接続する水廻りが付属した「渡り廊下」で構成され、「離れ」屋根裏には、「昭和四年七月吉日」上棟の棟札が残されている。平成24年、座敷「離れ」を中心とした、耐震診断、耐震改修（平成24年度：京都市助成）を行い、建物の耐震安全性を向上させている。（公財）京都市景観・まちづくりセンター発行「町家カルテ」所有、現在、（公財）京都市景観・まちづくりセンターの推薦により、「京都を彩る建物や庭園」指定に向けて審査準備中である。また、平成24年8月、京都市文化財保護課が視察に来られ、国・有形文化財指定を勧められたため、現在、登録申請を検討中である。



2. 空き家活用について

全体的なコンセプト

町内を中心に、地域交流、文化交流、教育活動を行える場所とする。

曼茶羅園町の活動の場として……当該建物は、その歴史からも、曼陀羅園町内の中心として、町内の活動拠点として存在し続けてきた。前所有者が晩年に使用されていた時には、広座敷は、「物置」とされており、その意味では、残念でもあった。座敷が再び、町内の活動場所として活用できるよう、もう一度復活させたいと考える。日常は、「ことり庵」として町内に開放し、広座敷スペースは、気軽に出入り、一服していただける場所とする。※

(2) 東山区という地域性を活かした活用

東山区は、特に少子高齢化が進んだ地域であり、曼陀羅園町内、付近もその例外ではない。

一方で、近隣には、「日吉窯」を構える窯元が集まる焼き物の産地であるなど、芸術、文化創造の町であり、また、曼陀羅園町に隣接して京都女子学園等あり、文教地区でもある。これらの地域特性を踏まえ、具体的に、以下のような活用例を考えている。

① 少子高齢化の進む地域での活用、②教育・ボランティア活動の拠点 ③ものづくり・文化交流の拠点

①子育て支援、高齢者活動の拠点として

東山区は、京都市のなかでも、少子高齢化が進んだ区であり、「赤ちゃん」がいる世帯が周辺にいなかったり、独居の高齢者も少なくない。そこで、子育て家族が、赤ちゃんや子どもと、周囲を気兼ねせずに、ゆっくり過ごせる場（周囲は、豊国廟や智積院など、緑豊かな場所も、多くある。散歩や外出とセットでの提案もしたい）。

赤ちゃんやママと、高齢者が触れ合える場など。

②教育・ボランティア活動の拠点として

隣接する京都女子学園や、近隣の幼・小・中・学校等の教育機関と連携し、少人数の授業（ゼミや演習科目等）の教室用として利用をはたらきかける。京都市内を中心に、他の大学にも活用機会を提供したい。また、京都の歴史を知っていただくという意味で、京都を訪れる機会のある他府県の大学等にも、見学や会場場所として、公開していきたいと考える。

通常の教室と異なる空間で学習するという事は、日常と異なる新鮮さを感じられ、また地域住民を意識する機会ともなる。さらに、特に、芸術・文化系の専攻など、「ものづくり」や文化に深く関わる学校においては、学習のよい刺激となり得る。建築学校学生を対象とした、見学、実習や、芸術系大学・専門学校等を対象とした見学、演習、学生の日本文化学習関連の授業、イベントでの使用（見学含む）など。また、京都女子大学は、これまで、主に、東山区内において、地域連携課の方針のもと、様々なボランティア活動を展開している。現在も、実際に、町内独居高齢者の方への「お話相手ボランティア」で訪れてくれており、より広い場所で活動を受けたい旨の希望もでている。ボランティア活動を通じて、町内と学生との交流も試みたい。

③ものづくり・文化交流の拠点として

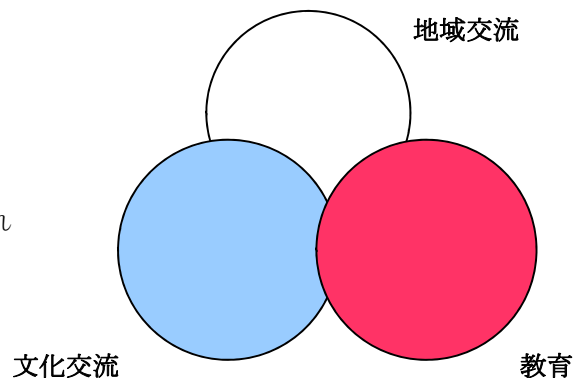
・やき物（ギャラリー・ワークショップ利用）

・ギャラリー空間としての活用の他に、来場者参加型のワークショップや、作品の体験・体感を併せもったイベント会場としての貸し出し。例）ア・陶芸作品のギャラリー展示&作品で盛った茶菓子・料理の試食体験など。

曼陀羅園町は、「日吉窯元まつり」（旧今熊野小学校と各窯元店内で開催）を支援しており、今年も町内会長が、広報等活動に参加した。当該建物は、地域のイベント行事のごく近隣にあり、このような行事活動においても、活用してもらいたいと考えている。

これら、地域交流、文化交流、教育という活動目的は、それぞれが独立しているものではなく、「教育活動において文化に触れる」、「文化活動によって地域交流を深める」

「教育活動において、地域交流を学ぶ」、「遠方に出かけられない高齢者が、町内で文化に触れる」といった、それぞれに融合できる視点があり、様々な角度から、これらの活動を、活発に行いたいと考える。



建物の特性を活かした活用

当該建物は、昭和初期当時の伝統建築様式で建てられているが、屋根裏は「洋トラス組み」といった、一般住宅には、変わった構造をしている。また、特に「離れ」座敷の室内は、良好な状態を保っている。屋久杉（推定）を使用した格天井、天然絞の床柱、花頭窓、金箔の切細工を施し、襖裏には蓮の花を描いた仏間の襖、「大文字」を描いたと思われる、直筆の日本画が描かれた幅広の襖絵、一枚板の長い縁側と揺れガラスの建具、春日燈籠を眺める中庭があり、また、座敷横の洋室においても、当時輸入の始まったラワン材で、幾何学模様が施された天井、建て主が当時直輸入したと思われるウィリアム・モリスの壁紙を使用した襖など、独特の雰囲気醸し出している。これらの活用に関しては、たんに空間のみを利用するのではなく、これらの興味深い建築様式の見学や、この環境下で行うにふさわしい、芸術性の高いイベント（ギャラリー、モノづくりワークショップなど）を展開していきたい。